

1 学校経営方針

◎四條畷市教育振興基本計画

予測不可能な時代を豊かに生き、未来を拓く人材を育成するには、子どもから大人まで、すべての人々が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働し、学び続けることができる環境づくりが必要です。（四條畷市教育振興基本計画より）

みんなの学びが叶うまち ～ 生涯 学び 夢 挑戦 ～

★上記の基本理念並びに本校の実情をふまえ、本校の学校経営方針を以下のとおりとする。

◎学校教育目標

- 《安心》・・・『安心できる・居場所がある学校づくり』を図る。子どもたちが安心して学校生活を送ることで、全ての子どもたちがその可能性を最大限引き出せるよう子ども理解に基づいた適切な集団作りに努める。
- 《自律》・・・将来の社会の担い手を育てることを基本理念に、自らの力で自らを律しながら主体的に学習し、放任ではなく『自ら判断し適切に行動できる子どもを育成する』ことをめざす。
- 《対話》・・・協働的な学び、対話的で深い学びを支えるとともに、多様性が尊重される時代で、異なる価値観や考え方を認め合い相互に尊重し、『対話を大切にして合意形成を図る子どもを育成する』ことをめざす。

◎基本方針

(1) 確かな学力と進路指導の充実

- 本年度の研究テーマ『習得した知識・技能を活用して、自分の言葉で表現する力を育む』を意識した学びの改善を図る。
- 自ら課題を見つけ『主体的に取り組む』ための基礎学力の定着を図り、『個別最適な学びを充実』していくため、iPadなど『ICT機器の効果的な活用』を図る。
- 対話的な活動により、より良い取り組みや結論を導くことができるよう探究的な学習や体験活動など『協働的な学びを効果的に取り入れ』、実践を進めていく。
- 小学校や卒業後の系統性を意識したキャリア教育の充実を図り、子ども一人ひとりが夢をもって『自分に合った進路選択ができる』ような進路指導に努める。

(2) 豊かな心の育成と温かい人間関係作り

- 人間関係作りの第一歩として『挨拶』の推進、そして『承認・賞賛・感謝』の声掛けに取

(様式)

り組み、『対話を大切に相互に尊重しあう』子どもを育成し、『居場所があり安心できる学校』づくりを図る。

- 学年担任制を取り入れ、『様々な出会いや対話を大切に』、様々な価値観や考え方のあることを知ることによって、『他者の尊重』や他人への『思いやりの心の醸成』を図る。
- 道徳教育や人権教育の理念を大切に、これからの生き方についてしっかりと『子どもが自ら考える』ことができるよう取り組みを進めていく。
- 教職員が孤立することなく組織的に連携・協力し、学年担任制の良さをいかながら『職員室から居心地の良い安心できる学校づくり』を図る。

(3) 生徒指導の充実

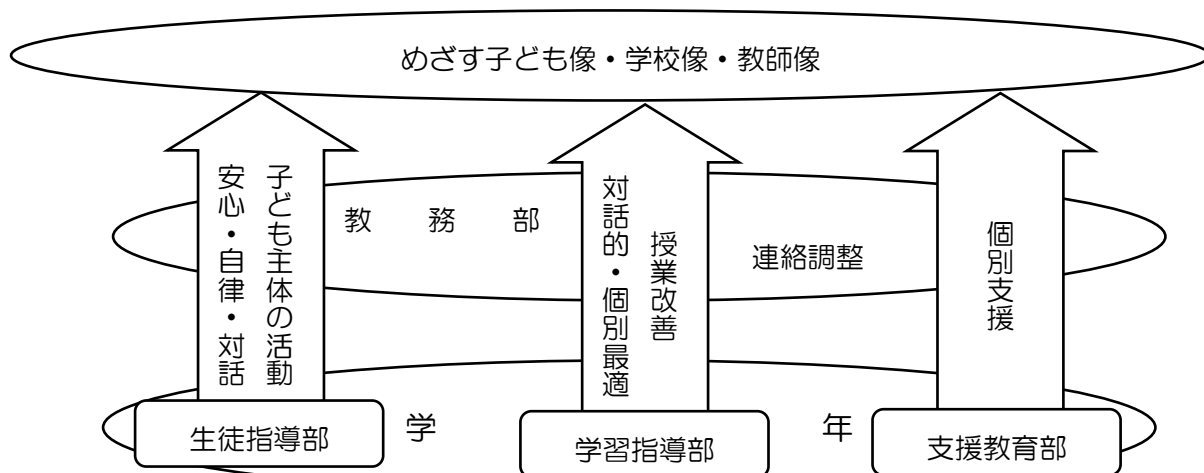
- 子どもを理解し子どもに応じた生徒指導を基本とし、日頃からの声掛けや観察を大切に、問題行動等の適切な『未然防止・早期対応』に努める。
- 支援教育の視点から子ども理解を深め、指導を工夫し、自分で善悪を判断し行動できるよう『生徒の自律を育む生徒指導』に努める。
- すべてを型にはめるのではなく自主性を重視しながら、『適切に自律できる集団をつくる』ことができるよう努める。
- 生徒会活動や学校行事への積極的な参加を進め、リーダーの育成を図るとともに対話し自律する能力を育てるとともに、『自主・奉仕・協調の精神』を育てる。

(4) 健康管理・安全教育・食育の推進

- 運動に親しみ、『自ら健康を管理』し、改善していく資質や能力を育成する。
- 安全の大切さを認識させるとともに、『自他の生命や人権を尊重』し、自ら進んで安全の保持に努める態度を養う。
- 登下校時や学校生活、自然災害等における危機管理体制を確立し、『安心・安全な学校体制の充実』を図る。
- 食に関する正しい知識を得て、『望ましい食習慣』を身に付けさせる。

(5) 地域に開かれた学校づくり

- 自分たちの生活する地域に目を向け、地域の素晴らしさを守り、育てる態度を養う。
- こ小中の連携をすすめて、同じ方向性で校区の子どもたちの成長を支える取組みを計画的に実践する。
- 学校運営協議会の充実を図り、地域の学校として地域に愛される学校づくりをめざす。



(様式)

2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）	
★めざす子ども像	<p>キャッチフレーズ《はなそう、つながろう、やってみよう》</p> <p>こども園、小学校、中学校とで連携して各学校園の卒業時のめざす子ども像を、学校運営協議会でコミュニティ・スクールとしてのめざす子ども像とした。</p> <p>《中学校》</p> <ul style="list-style-type: none">・『「はなそう」：大人にも子どもにも本音でしゃべれる子』 ※自分の思いを相手の気持ちを尊重しつつ工夫して伝えられるように・『「つながろう」：誰とでも幅広く交友関係を持てる子』 ※決まった相手だけでなく多くのつながりを持ち、結果全体としてまとまることができるように・『「やってみよう」：失敗を恐れず自分で考えて行動できる子』 ※結果に左右されず自分の興味関心に基づいて様々なことにチャレンジできるように
★めざす学校像	<ul style="list-style-type: none">・自治能力の高い学校・一体感のある学校・安心できる学校・公平感のある学校・組織力のある学校
★めざす教師像	<ul style="list-style-type: none">・組織的に連携・協力する、同僚性豊かな教職員・現状の課題を確認し、向上や改善を図ることができる教職員・生徒のために情熱と使命感を持ち、職務遂行に当たる教職員・危機管理意識の高い教職員

3 学校の現状（よさと課題）

(1) 子どもたちの実態

（良い面）

- きちんと学ぼうとする気持ちが強く、授業にも前向きに取り組む生徒が多い。
- 授業態度も良く、ペア学習やグループ学習にも積極的に参加できる。
- 様々な学校行事や学年行事において、主体的に取り組む参加しようとする姿が見られる。

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

- 家庭環境的にはとても落ち着いている生徒が多い。
- 教育熱心な保護者が多い。

②地域

- 一小一中で、9年間を見通した取組み、さらにはこども園との連携も意識した取組みができる。

③組織（教職員、PTA、保護者）

（教職員）

- 学校規模の縮小により教職員の人数が少なくなってきたため、学年・各部を超えて同僚性を有して組織的に連携して協力することが必要であり、逆にそのことを強みとして取り組んで行く必要がある。また、授業力改善に向けての取組みは、とても進んできている。それが、生徒の学力向上や主体的な学習につながるようめざしていく。

（PTA、保護者）

- 教育熱心な家庭が多く、教育活動に寄せる関心度は高い。
- 保護者の大部分は、学校の頑張りはしっかりと評価し、協力体制も安定している。
- PTA 活動には協力的で、学校や地域の行事にも積極的に参加する人が少なくない。

(様式)

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分1 『学校経営』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）
①本年度の研究テーマ『習得した知識・技能を活用して、自分の言葉で表現する力を育む』を基本理念とし、「ICT機器の効果的な活用」「協働的な学びの効果的な取り入れ」を授業改善に取り入れ、取組を進める。 ②子ども主体の取組みをすすめ、『自ら判断し適切に行動できる子どもを育成する』。 ③支援教育の理念を大事にし、『子ども理解に基づいた学習支援・個別支援及び生徒指導』を進める。 ④キャリア教育の視点で学校の教育活動の充実を図り、『自己肯定感や自己有用感の醸成』を図る。		学習に関するアンケート 学校教育自己診断アンケート
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①-1 学習に関する生徒アンケート項目「ICT機器を活用することで、学習が楽しくなりましたか。」の強肯定的回答 ①-2 「ICT機器を活用することで、進んで学習するようになりましたか。」の肯定的回答 ①-3 学習に関する教職員アンケート項目「タブレットPCを活用して授業改善を図った。」の肯定的回答	①-1 50% ①-2 70% ①-3 80%	現状 ①-1 37%、①-2 61%、①-3 75% ・先進的な取組を行う学校や優れた教職員の授業を参観するなどし、学んだことを教職員で共有する。 ・学習指導部で推進した授業研究を日常の授業にいかす。 ・ICT機器や協働的な学びを効果的に取り入れるとともに日常的な情報交換を推進し、効果的な授業を共有する。 ・授業参観ウィークなど様々な場面での授業研究を推進する。
②-1 学習に関する生徒アンケート項目「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答 ②-2 自己診断生徒アンケート項目「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」の肯定的回答 ②-3 自己診断生徒アンケート項目「あなたはつらい時、困っている時に相談することができていますか」の肯定的回答	②-1 90% ②-2 90% ②-3 90%	現状②-1 81%、②-2 81% ②-3 82% ・学校全体や地域を含めての挨拶、承認、賞賛、感謝の声掛けの推進。 ・生徒会活動の推進等を通じた子ども主体の取組みの活性化。 ・日常的な情報交換等を通じて、生徒の課題だけでなく長所を共有し、効果的な個別対応の視点を育む。 ・学年担任制の利点を生かし、多面的・多角的生徒理解や生徒対応の充実を図る。
③-1 学習に関する生徒アンケート項目「学校に行くのは楽しい」の肯定的回答 ③-2 学習に関する教職員アンケート項目「支援教育の視点から指導上の工夫を行いましたか。」の強肯定的回答	③-1 80% ③-2 50%	現状③-1 72%、③-2 35% ・多面的・多角的な生徒理解や生徒対応の充実を図る。 ・通級指導教室の充実。 ・支援教育に関する教員の視点を常に意識し、日常的に効果的な学習のあり方を提示することを心がける。 ・日常的な情報交換等を通じて、生徒の効果的な学びのあり方を検討する。
④ 学習に関する生徒アンケート項目「将来の夢や目標を持っている。」の肯定的回答	80%	現状④ 74% ・こ小中連携して、めざす子ども像を中心に据えた取組みの推進 ・ボランティア活動の推進

(様式)

		・地域人材や外部講師による学ぶ機会の増加
--	--	----------------------

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）
①チーム田原として、教職員それぞれが自分の得意・不得意を認識し、得意なことはチーム田原のために活用し、不得意なことはみんなでカバーしていけるような組織的な体制づくりを構築する。 ②こ小中連携を軸として、子どもの成長を長期的に見ることで、子どもの良さと課題を共有しつつ具体的な教育活動ができる組織づくりをめざす。		学習に関するアンケート 学校教育自己診断アンケート
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①-1 学習に関する教職員アンケート項目「学校の状況や課題に対し、全教職員で組織的に取り組んでいますか。」の強肯定的回答 ①-2 自己診断教職員アンケート項目「日々の教育活動における課題や悩みについて気軽に相談し合える職場の人間関係ができていいる。」の強肯定的回答	①-1 60% ①-2 60%	現状 ①-1 50%、①-2 55% ・定期的に週に一度、教職員で打ち合わせを行う時間を設定する。 ・学校の状況や課題について、随時情報提供する。 ・職員会議や運営委員会等において、良い取組みや課題について情報共有するとともに、課題については自分事として議論できる環境づくりに努める。 ・管理職や学年主任、各部長が日ごろから部員等の行動等を観察しつつ助言できる雰囲気醸成を図る。
② 自己診断アンケート「こども園、小学校、中学校の連携した取組みに効果的なものがありましたか。」の肯定的回答	60%	② 新規 ・年6回のこ小中連携会議の実施 ・こ小中が連携した取組みの実施 ・年2回のこ小中の教職員による合同研修会の実施

目標設定区分3 『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）
①様々な教育活動において、常に目的を意識した取組みを推進し、目的に対する達成度の視点での振り返りの定着を進める。 ②教職員が孤立することなく、経験豊富な優れた教職員の知識や技術等を、若手や経験の少ない教職員に受け継ぐことができる組織をつくり、組織力の向上を図る雰囲気づくりを進める。 ③生徒と向き合う時間を確保し、創意工夫を生かした教育活動を展開できるよう、教職員が心身ともに健康で意欲的に教育活動に取り組むことができる職場環境を整える。		学校教育自己診断アンケート

(様式)

B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
① 学校自己診断アンケートの項目「本校は教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」の強肯定的評価	① 50%	現状 ①45% <ul style="list-style-type: none">目的を意識した各活動の振り返りを実施し、改善を図る意識を涵養する。日々の情報交換を定期的実施する機会の設定。先進的な取組みの学校の訪問や優れた教職員の授業参観により、学んだことや得られたことを本校全教員で共有
②-1 自己診断教職員アンケート項目「経験豊富な教職員から助言を受ける、あるいは若手や経験の少ない教職員への助言やサポートを行う、悩んだり困ったりしている教職員を支援する等、いずれかの行為を積極的に行った」の肯定的回答 ②-2 学校自己診断アンケートの項目「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている。」の肯定的評価	②-1 60% ②-2 90%	②-1 新規、現状 ②-2 85% <ul style="list-style-type: none">先進的な取組みの学校の訪問や優れた教職員の授業参観により、学んだことや得られたことを本校全教員で共有。学習指導部による授業研究を推進する。日常的な情報交換を推進や様々な場面での授業研究の推進を図り、『習得した知識・技能を活用して、自分の言葉で表現する力を育む』効果的な授業改善を推進する。経験豊富な教職員が、若手や経験の少ない教職員に対するアドバイスを行う、またアドバイスを受けるなど、教職員の育成を図る雰囲気づくりに努める
③ 令和8年度の教職員の年次有給休暇の平均取得日数	③ 12日	③ 新規 <ul style="list-style-type: none">教職員が不在の際に他の教職員がサポートできる組織的な体制を整える。教職員が自然に相互に助け合う雰囲気づくりを醸成する。

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標	達成基準（各種調査、アンケート等）	
コミュニティ・スクールとしての定着を図る。 PTA 活動や地域教育協議会の活動を通して顔のわかる関係作りを進めることで自分たちの地域の自分たちの学校としてのイメージの定着を進める。	具体的な活動内容の決定 地域の様々な団体との交流事業の実施 学校教育自己診断アンケート	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
学校自己診断アンケートの項目「学校は家庭への連絡や意思の疎通を行っていますか。」の肯定的回答	70%	新規 <ul style="list-style-type: none">丁寧に生徒の活動や学校の取り組みをマチコミや通信などを通して発信する。地域の活動に多く生徒たちをつないでいく。学校運営協議会を核として学校のニーズを発信しつつ、地域に開かれた学校づくりを意識した取組みを開拓する。